

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	グループホームひだまり 3階		
所在地	和歌山県海南市下津町方498-25		
自己評価作成日	平成27年7月20日	評価結果市町村受理日	平成27年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3071100279-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成27年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人、その人の思いやニーズに沿った個別ケアを行っています。また、四季折々の季節感を味わえる行事を企画し楽しんで頂く他、ドライブや買い物、外食等の外出支援で気分転換を図っています。笑顔で穏やかに暮らせるよう、助け合い、いたわりの気持ちを持って、家庭的な環境の中過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階ユニットと3階ユニットはそれぞれが独立した一つの家庭のように運営されており、その日の天候や利用者との会話で外出するなど、状況に合わせて毎日を楽しめるよう取り組んでいる。1階にはデイサービスが併設されており、グループホーム利用者がクラブ活動に参加することもでき、地域の高齢者が集まるデイサービスに知人友人を訪ねたり、デイサービスの利用者がホームに会いに来ることもある。退去後も家族と年賀状のやり取りをしたり、利用者が亡くなったことがわかったら、初盆にはお参りをして、家族と思い出話をするなど、一人ひとりの利用者を大切に支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づいた介護サービスが提供できるよう、スタッフ会議または申し送り等で様々な意見を出し合い、サービスの向上に努めている。	それぞれのユニット理念の中で、「笑顔」「いたわり」「ささえあう」「安心安全」を大切にして、ユニットごとに職員と利用者同士が共に支え合う生活の場となるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への買い物同行時や地域の方々が慰問に来られた際など交流する機会を設けているが、利用者の重度化により外出の機会は減っている。	併設のデイサービスと合同で開催する、年2回の介護教室と月1回のふれあい教室で幅広い年代の地域の人と交流している。文化祭や運動会に招待されるなど、地域の中学校、幼稚園との繋がりもできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域介護者教室にて、地域の方々に認知症についての理解を深めてもらえるよう講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の近況や支援の経過報告の他、毎回議題を挙げ、それに対する家族様の意見を募り、サービス向上に活かしている。	民生委員、地域包括支援センターの職員と数名の家族が出席し、利用者が加わることもある。会議はリビング横の和室で行い、利用者の普段の様子がよく分かる。	周辺地域に事業所の取り組みを知らせるためにも、外部の視点を持つ新たな地域の人々が加わって地域に根ざした事業所を作り上げていくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスに関する問題点など分からないことがあれば、随時相談をしている。	2ヶ月に1回の地域ケア会議に出席して市の地域包括支援センターと連携を図り、相談連絡を密にとっている。広報のため事業所のイベントのチラシを持参し、下津行政局に置いてもらうなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前に階段がある為、事故防止の為に日中は施錠しており、利用者の希望時のみ開錠している。家族様の了承を得た上で夜間のみベッド柵をさせて頂いている方もおられます。	2階ユニットではユニット玄関以外の出入口は施錠していない。ユニット玄関も見守り可能な時間帯は施錠を解いている。3階ユニットでは重度の利用者の安全確保のため常時施錠している。	利用者の安全確保に配慮しながらも、利用者が、さらに自由な気持ちで閉塞感を持たずに生活できる工夫を見いだせることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して職員全員が虐待防止について理解し防止に努めている。		

【事業所名】グループホームひだまり【ユニット名：3階】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を利用されている方がおられるので、勉強会を通して職員全員がその制度について理解し支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際は、家族様が納得していただけるよう十分な時間をかけて説明を行い、家族様の要望や疑問点なども合わせて尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族様や関係各所に参加して頂き、意見や要望を募りサービスの向上に繋げている。	来訪時の家族への声掛けや電話連絡など、コミュニケーションの機会を多く持ち、意見や要望が聞けるように心がけ、家族から聞いた内容は記録して運営に反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や勉強会にて業務全般や利用者に関することなど様々な問題点を取り上げ、職員個々の意見や提案を出し合っている。	日常的に職員の声を取り入れた運営が行われている。月1回のフロアごとのスタッフ会議で出された職員の意見は必要に応じて管理者から「ひだまり」全体の会議や法人全体の会議で検討される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課において職員と上司が面談し、そこで個々の目標や考え方などを聞きだし、それに応じた取り組みが出来る就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部署内で行う勉強会の他に法人内外で開催される講座、研修会にはなるべく多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加や同法人のグループホームとの相互実習等の活動を通して個々のスキルアップとサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	年代別は背景シートなどを用い、ご本人様、家族様から生活上での要望や身体状況、病歴、生活歴等の聞き取りを密に行うことで、本人様が安心して暮らして頂ける体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の要望のみに捉われず、家族様の気持ちや要望にもしっかりと傾聴し受け止めることで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様からの聞き取りから、求められるニーズを確実に引き出し、それに応じたサービスを他サービスも含めて考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務のみならず、利用者様と生活を共にする立場で接することで、暮らしの中の問題点の抽出や信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者様の様子や状態の報告等の連絡をこまめに取り、家族様からアドバイスや意見を頂くことで、共に支えあっていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の方も面会に来られており、馴染みの関係が保たれるよう支援しています。希望に応じてデイサービスに来られる利用者との交流も行っている。	一人ひとりの情報を記録して支援している。お盆の時期が近づくと準備を気にする利用者が多く、利用者の思いに沿って自宅に帰り、お盆の時期を馴染みの人と過ごせるようにも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や生活環境に合わせ、リビングの座席の位置を配慮したり、職員が間に入り利用者同士のコミュニケーションがスムーズに取れる様支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人を退所後も要望があれば積極的に相談に応じ、より良い関係を継続できる様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動など少しでも変化が見られれば生活シートに拾い上げ、それらからニーズを抽出しケアプランに反映させている。	日常の利用者の言葉から意向を聞き取って記録した「生活シート」を基に「日常生活調査表」を作成し、職員間で共有して本人本位の生活ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年代別背景シートやセンター方式を用いてこれまでの生活歴を把握し、課題解決に向けての取り組みに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活シートにて個々の生活パターンや状態の変化を把握し、自立生活に向けた支援に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様からニーズを聞き出した上で、処遇会議にてスタッフの考えや意見を出し合い、対応策等を含めた介護計画を作成している。	希望を聞き、一人ひとりに即した具体的な計画を作成している。月1回、ユニットごとに処遇会議が行われ、毎回3～4人の利用者の介護計画について、職員間で話し合い見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の職員間の申し送りの他に申し送りノートを活用し、情報の共有化を図っている。支援経過や生活シートから利用者の状態や課題の進捗状況を把握し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態の変化に柔軟に対応できる様、針灸や訪問歯科、訪問看護等サービスの多機能化を図っている。		

【事業所名】グループホームひだまり【ユニット名:3階】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の幼稚園・保育園やよさこい踊りチームの慰問や中学生の職場体験受け入れなど、地域との触れ合いを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族が希望される医師に診て頂いている。日頃から密に連絡を取り連携強化に努めている。	利用者がそれぞれの主治医を持っていて、往診してくれる医師もいる。受診は家族で行うが、緊急時には職員が対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時や緊急時など同法人の訪問看護師に24時間相談、対応して頂ける様連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や関係病院には日頃から相談等に乗って頂き、連携の強化に努めている。入院時は随時入院先に連絡を取り、状態の把握を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族を含め他部署や医療関係者と連携を図り、本人・家族の考えを尊重した対応を取っている。	法人の方針では重度化や終末期のケアは特別養護老人ホーム等の施設で行うこととしている。重度化や終末期の利用者の対応については家族と相談し、事業所のできる範囲内で、可能な限り行っていけるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回消防署立会いの下、救命救急訓練を実施している。あらゆる事態に備えた緊急時対応マニュアルを作成し、勉強会等で随時見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練において、消防署指導の下、避難経路の確認や誘導訓練を行っている。全職員が避難方法を把握できるよう災害時マニュアルや消防組織編成表を作成している。	消防署の指導で火災、地震、夜間を想定した訓練をしている。火災を未然に防ぐことにも力を入れ「火災予防組織編成表」を作成している。水や食料の備蓄、カセットコンロ、発電機等の用意をしている。	災害時の避難場所の一つとなっているので地域との協力関係を強めていけるよう、今後に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、人生の諸先輩であることを常に念頭に置き、失礼の無い対応を心掛けている。	利用者を不快にさせる職員の言葉や行動がないよう気をつけている。トイレの鍵に細工して鍵がかからないようにしているので、使用中に外から開けることができ、羞恥心への配慮が充分でないところがみられる。	羞恥心への配慮の面から、トイレの鍵の細工の見直しを検討することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け時、なるべく本人の希望を引き出せるよう、選択肢を用いた尋ね方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースを最優先し、希望に沿った生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月に来られる散髪ボランティアの協力の他、お化粧品やネイルアートを実施し、お洒落を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や味見などを利用者と共にを行い、本人の残存機能を活かした支援を行っている。	同じテーブルで職員と一緒に食事を楽しみ、2階ユニットでは買い物も利用者が出かけている。随時季節のメニューを取り入れ、外食も取り入れている。おやつや飲み物は利用者が選ぶこともできる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活シートに水分量や食事量を記入し、把握できる様努めている。水分はコーヒーやジュースなど数種類用意しており、好みに応じて自由に選んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや歯ブラシの声掛けを行い、衛生保持に努めている。週に一度ポリデントにて入歯の消毒洗浄を行っている。		

【事業所名】グループホームひだまり【ユニット名：3階】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間生活シートや排泄チェック表などで個々の排泄パターンを把握しており、それに応じてトイレ誘導やおむつ交換などを行っている。	排泄の自立支援に取り組むことで、オムツやパッドのコスト削減ができています。利用者によっては、夜間の睡眠を妨げないよう配慮した対応をする時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の状況を把握しており、便秘時などに備えて服薬での調節の他、水分強化や消化の良い繊維物などの食材を多く提供するように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望する時間帯や曜日に入浴して頂ける様努めている。利用者の状況に応じて職員二人での入浴介助も行っている。	多くの利用者が夕食までの時間帯に2～3日の間隔で入浴しているが、希望すれば毎日入浴することもできる。言葉かけを工夫して、どの利用者も気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態に応じて昼寝を促したり、夜間入眠を促すタイミングを考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個別の服薬シートを作成しており、薬の目的や作用等が把握し易いよう工夫している。服薬時の状態や時間は生活シートに記入し、変化の早期確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個人の嗜好を取り入れたレクリエーションや行事、体操等を実施し、自由に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物や散歩、ドライブなど希望に応じて支援させて頂くように努めている。リフト付きの車を使用することで車椅子の方も不自由なく参加して頂いている。家族様にも外出支援の協力をして頂いている。	外出の機会を多くして閉塞感を持つことが無いよう支援している。それぞれの利用者が住んでいた地域にドライブに行き、見慣れた景色を感じられるよう取り組んでいる。個別の買い物に同行することもある。	

【事業所名】グループホームひだまり【ユニット名：3階】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物などの外出支援等で、本人の希望されるものを所持金内で自由に購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて電話の取次や手紙のやり取りの支援をさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは自然光を多く取り入れられる様、窓の配置がなされており、それに応じてテーブルや椅子の配置も考えている。ベランダでは四季折々の草花や野菜を利用者の方と一緒に育てている。	ゆったりした、リビングとダイニングで、キッチンも利用者が行き来しやすい造りになっている。ベランダにはプランター菜園も有り、季節の野菜や、花等が植えられている。2階はベランダが広く、バーベキューを楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席配置は気の合う方同士で座って頂いけるよう配慮している。リビングでは思い思い好きな場所に自由に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅にて使用してきたものをそのままお使い頂くことで、落ち着いた暮らしができる様配慮している。	それぞれの利用者が快適に過ごせるよう工夫している。足の不自由な利用者にはベッドや手すり等を持ちながら部屋を自由に行き来できるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残存能力を十分に活かせるよう、本人、家族様と相談しながら居室内の物の配置を変えている。		